

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

## 第5章

# いきものとみどりの課題の まとめと改定の方角性

## 5-1 課題のまとめ

### (1)現状に基づく課題の整理



区の概況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●台地と谷からなる起伏の多い地形が特徴となっています。</li> <li>●人口は令和7(2025)年4月1日現在の住民基本台帳で282,281人であり、近年の傾向を基礎として区が行った推計では、今後も区の総人口は緩やかに増加傾向を続け、令和17(2035)年には約28.9万人となる見込みです。</li> <li>●高齢人口は令和7(2025)年4月1日現在の住民基本台帳で19.6%となっています。</li> <li>●土地利用は、住居系の用途地域の占める割合が高く、全区面積の73.5%を占めています。公園、運動場などの公園系の土地利用は3.2%となっています。</li> </ul>	
社会情勢の変化	
国際的な動向	SDGs、ネイチャーポジティブ、NbS、OECM、Well-being、気候変動など
国の動向	生物多様性国家戦略2023-2030、生物多様性増進活動促進法、緑の基本方針、都市緑地法、グリーンインフラ推進戦略2030など
東京都の動向	2050東京戦略、都市づくりのグランドデザイン、東京都生物多様性地域戦略、東京グリーンビズ、緑確保の総合的な方針、都市計画公園・緑地の整備方針など
目黒区の動向	目黒区基本構想・基本計画、目黒区環境基本計画、目黒区都市計画マスタープランなど
いきものの現状	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「めぐろの森」を拠点に数多くのいきものが生息し、3,695種のいきものが確認されています。</li> <li>●鳥類の年間確認種数は50種前後を推移し、指標在来生物種の分布率は増加傾向にあります。</li> <li>●生物多様性の言葉の認知度は減少傾向～横ばいで推移しています。</li> </ul> <p>これまでの施策の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広く区民へ呼びかけ、いきものの観察記録を集める区民参加型の生物調査を実施しています。</li> <li>●情報提供を行う「自然通信員」は、現在約1,200世帯が登録しています。</li> </ul> <p>いきもの調査の結果など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6(2024)年度に実施したいきもの調査では、鳥類24種、昆虫類111種、爬虫類8種、両生類3種、植物193種が確認されています。</li> </ul>	
みどりの現状	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5(2023)年度の緑被率は17.0%であり、平成26(2014)年度と比べて0.3ポイント減少しています。</li> <li>●令和7(2025)年度の公園整備面積は48.99ha、区民一人あたりの面積は1.74㎡/人であり、目標値(2.0㎡/人)を下回っています。</li> </ul> <p>これまでの施策の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成28(2016)年以降、新たに9か所の公園を新設しました。</li> <li>●みどりのまちなみ助成、緑化計画書など、区民・事業者とともに積極的な緑化を進めています。</li> </ul> <p>みどり・公園に対する区民意向など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和6(2024)年度の公園利用実態調査では、保育園等の園外保育に利用される公園が増加し、乳幼児向けの遊具整備へのニーズが高まるなど、公園機能が不足する地域がみられます。</li> </ul>	

## 目黒区の課題

### 〇いきものの課題(p.58 参照)

- 課題① 生態系に配慮したみどりの保全・創出に係る取組の充実
- 課題② 公民連携で進める「めぐろの森」の保全管理、生物多様性や外来生物の防除の普及啓発
- 課題③ 緑道や街路樹、個人の庭、生け垣、屋上緑化、プランター等のいきものの移動経路の確保
- 課題④ 生物多様性に配慮した行動の促進

### 〇みどりの課題(p.88 参照)

- 課題① 緑被率の減少傾向への対応
- 課題② 公園が不足する区域での整備や公園機能の再配置
- 課題③ 人材育成や各団体への支援の強化
- 課題④ 地域特性に応じたみどりづくり

## いきものとみどりに係る社会課題

気候変動への対応

資源循環対策

自然災害への対応

景観、歴史・風土の継承

Well-being の向上

## 課題解決の方角性

### ネイチャーポジティブを目指した取組の充実

みどりの量を増やし、質を高める

いきものやみどりの拠点の充実、活性化を図る

地域特性に応じて戦略的にいきものやみどりを保全・創出する

一人ひとりが担い手となる場や機会を充実する

生物多様性に配慮した行動変容を促す

### 自然共生により区民の幸福に資する取組の充実

ゼロカーボンシティへ寄与するみどりを創出する

循環型社会の実現に向けみどりを活用する

災害に強いまちづくりを推進する

ゆとりと活気あるまちづくりを推進する

みどりを通じ多世代が支え合い区民の健幸を増進する

## 5-2 改定の方向性

「現状に基づく課題の整理(p.90 参照)」を踏まえ、「ネイチャーポジティブを目指した取組の充実」と「自然共生により区民の幸福に資する取組の充実」を、NbS(p.7 参照)の考え方にに基づき、あらゆる主体(行政、区民、事業者等)が連携しながら取り組みます。公民が連携しながら「ネイチャーポジティブの達成」と「SDGsへの貢献」を図ることで、いきものとみどりの将来像「野の鳥の歌が聞こえる 自然と共に暮らすまち」の実現を目指します。

また、将来像の実現を目指すことで、目黒区基本構想の将来像「さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる」の実現に寄与することを改定の方向性に位置づけます。

